

第十條 海軍軍屬ト稱スルハ海軍文官、同待遇者及宣誓シテ海軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ

第十一條 陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十二條 上官ト稱スルハ命令關係アル海軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ卒ハ總テ同等トス

第十三條 指揮官ト稱スルハ艦船、軍隊ヲ指揮スル海軍軍人ヲ謂フ

陸海軍用船又ハ拿捕船舶ニ乗組ミ之ヲ監督スル海軍軍人ハ指揮官ニ準ス

第十四條 守兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守所ニ在ル海軍軍人ヲ謂フ

第十五條 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル艦船、軍隊ニハ戰時ノ規定ヲ適用ス

第十六條 海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第十七條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前若ハ艦船危急ノ際ニ於テ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第十九條 本法及ヒ陸軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ海軍軍人ニ準スル者ト雖陸軍軍人ニ對シテハ陸軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪

第二十條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別

ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無

期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職

務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ

處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十一條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ

他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十二條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 軍隊又ハ艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所建

造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト

二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト

三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト

四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト

五 敵國ニ降ラシムル爲指揮官ヲ強要スルコト

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十三條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル

者ハ死刑ニ處ス

一 艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其

ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシ

ムルコト

二 水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ

其ノ他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシ

ムルコト

- 三 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率ヒテ守所若クハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト
 - 四 艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト
 - 五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
 - 六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト
 - 七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト
- 第二十四條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
- 第二十五條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

錮ニ處ス

- 第二十六條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第二十七條 第二十条條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第二十八條 第二十条條又ハ第二十一条ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
- 第二十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章 擅權ノ罪

- 第三十條 指揮官外國ニ對シ故ナク戰闘ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス
- 第三十一條 指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰闘ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十二條 指揮官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ艦船軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ

七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十三條 命令ヲ待タス故ナク戰鬪ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪

第三十五條 指揮官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ其ノ艦船若ハ守所ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條 指揮官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ艦船、軍隊ヲ率キ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 指揮官其ノ艦船危急ノ時ニ當リ故ナク救護ノ方法ヲ盡サス又ハ衆ニ先チテ其ノ艦船ヲ退去シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 其他ノ場合ナルトキハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 指揮官敵ノ船舶ヲ拿捕スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ拿捕セサルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 指揮官敵前ニ於テ帝國又ハ帝國ト共同作戰ニ從フ外國ノ艦船ヲ救護スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ救護セサルトキハ一年以上ノ有期禁錮ニ處ス

第四十條 指揮官護衛ノ命ヲ受ケタル艦船ヲ故ナク委棄シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十一條 指揮官其ノ艦船軍隊ヲ率キ故ナク守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ

從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條 指揮官又ハ乗員故ナク其ノ艦船ヲ覆没又ハ破壊シタルトキハ死刑ニ處シ之ヲ損壞シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四十三條 指揮官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 指揮官衝突、坐礁其ノ他ノ危難ニ罹リタル艦船アルニ當リ救護ノ請求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條 部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十六條 艦船當直將校、守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者故ナク其ノ勤務ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處ス

二 戰時又ハ擱岸、坐礁其ノ他艦船危險ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條 艦船當直將校睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 戰時又ハ航海中ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條 守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條 戰時又ハ事變ニ際シ偵察ノ勤務ニ服スル者虛偽

ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報又ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク

之ヲ傳達セサルトキハ亦前項ニ同シ

第五十條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當

リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮

ニ處ス

第五十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其

ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺

乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以

上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又

ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以

テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタ

ル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條 第三十五條乃至第三十七條、第四十條乃至第四

十二條、第四十六條、第四十九條及第五十一條乃至第五十

三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章 抗命ノ罪

第五十五條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左

ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處

ス

二 戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十七條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章 暴行脅迫ノ罪

第五十八條 上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五十九條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

ニ處ス

第六十條 上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

禁錮ニ處ス

第六十一條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條 守兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條 守兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ

懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一

年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年

以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 第五十八條乃至第六十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章 侮辱ノ罪

第七十一條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下

ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ

方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮

ニ處ス

七十二條 守兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下

ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章 逃亡ノ罪

第七十三條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ

區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁

錮ニ處ス

二 戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又

ハ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ

懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從

テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ

處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ

禁錮ニ處ス

二 戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十五條 艦船ノ乗員故ノク其ノ艦船發航ノ期ニ後レタルトキハ其ノ經過日數ヲ問ハス前二條ノ規定ヲ適用ス

第七十六條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十七條 第七十三條第一號、第七十四條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章 軍用物損壞ノ罪

第七十八條 海軍ノ艦船、工場、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル

倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第七十九條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍

ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 戰時ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 火藥、汽罐其ノ他激發スハキ物ヲ破裂セシメテ前

二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條 海軍ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壊シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條 第七十八條ニ記載シタル物又ハ海軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ

處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十八條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第八十五條 本章ノ規定ハ海軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪ノ罪

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ハ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章 違令ノ罪

第九十五條 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 二 戰時ナルトキハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
- 三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十六條 歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者故ナク召集ノ

期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五

日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條 艦船ノ危急ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タス其ノ艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ三年以上ノ有期禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル虛僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百一條 禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸瓦石其ノ他ノ物ヲ裝填シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百二條 守兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三條 戰時又ハ事變ニ際シ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演説若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百五條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者

ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第七十號布告海軍刑法ハ之ヲ廢止ス

○海軍刑法施行法

明治四十一年九月
法律第四十九號

第一條 本法ニ於テ舊海軍刑法ト稱スルハ明治十四年第七十號布告海軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ海軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 海軍刑法施行前ニ舊海軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ海軍刑法ニ定メタル主刑ト舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其ノ輕重ヲ定ム
海軍刑法ニ定メタル刑 舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑

死刑

死刑

無期懲役

無期徒刑

無期禁錮

無期流刑

海軍刑法施行法

有期懲役
有期禁錮

有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

第三條 刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照
ニ之ヲ準用ス

第四條 刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス
ル場合ニ於テハ剝奪公權、剝官、停止公權、監視又ハ罰金
ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス

前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ
在リテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス
第五條 海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行ノ前
又ハ後ニ確定裁判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘
罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル
一 確定裁判アリタル罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用

シタルトキト雖海軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付
併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ海軍刑法ヲ適用シタルトキト雖
舊海軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付
數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條 左ニ記載シタル者海軍刑法施行前更ニ海軍刑法ノ有
期懲役ニ相當スル刑ニ該ル舊海軍刑法ノ罪ヲ犯シ海軍刑法
施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ海軍刑法ニ於テハ犯累
ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セ
ラレタル者

二 舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル
罪ト同質ノ罪ニ依リ死刑ニ處セラレ其ノ執行ノ免除ヲ
得又ハ減刑ニ依リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル

者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依
リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條 海軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト海軍刑法施行後ニ
犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス
場合ニ於テハ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法
律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又
ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條 海軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト海軍刑法施行後ニ
犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス
場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律
ヲ適用スヘキトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリ
タル一ノ重キ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併
合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ海軍刑法ヲ適用ス
ヘキトキハ其ノ數罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ
付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪ニ付確定裁
判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲
ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘ
キトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關ス
ル規定ヲ準用ス

第十條 海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行後確
定裁判アリタル後海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪
タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪
ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト
餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 海軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定

メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ海軍刑法ノ罪ト看做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條 第六條第一項各號ニ記載シタル者海軍刑法施行後有期懲役ニ該ル海軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 海軍刑法施行後ハ舊海軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ海軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限リ海軍刑法ノ規定ヲ準用ス他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ
前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ海軍刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 海軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ料料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ主理其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條 海軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第十六條 海軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ海軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條 人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ舊海軍刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ海軍刑法ノ施行ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條 刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條 海軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加スヘキ刑ニ

處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條 他ノ法律中舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ海軍刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條 舊海軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊海軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條、第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條 海軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃

至第三號、第五號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條 刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條 海軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ニ最モ近キ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其

ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條 前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ海軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條 軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日常、旅費其ノ他ノ給與ニ關シ刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ主理之ヲ行フ

附則

本法ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○陸海軍刑法、同施行法ヲ臺灣ニ

施行スル件

明治四十一年九月
勅令第二百二十號

陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ハ之
ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸海軍刑法、同施行法ヲ樺太ニ施行スル件 六一四

○陸海軍刑法、同施行法ヲ樺太ニ

施行スル件 明治四十一年九月
勅令第二百二十一號

陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ハ之
ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸海軍刑法、同施行法ヲ關東州ニ

施行スルノ件 明治四十一年十月
勅令第三百五十七號

關東州ニ於ケル刑事ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外陸軍刑法
海軍刑法、陸軍刑法施行法及海軍刑法施行法ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸海軍刑法、同施行法ヲ關東州ニ施行スルノ件 六一五

海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ學生
生徒ニ關スル件

六一六

○海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ

◎學生、生徒ニ關スル件

明治四十一年九月
勅令第三百二十二號

海軍刑法第九條第二項ニ依リ除外スヘキ者左ノ如シ但シ現ニ
海軍ニ在リテ修業中ノ者ヲ除ク

一 海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生、主計
學生

二 海軍造船生徒、造兵生徒

三 海軍豫備生徒、豫備機關生徒

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍刑法施行前ニ公布シタル

命令ニ關スル件

明治四十一年九月
勅令第三百十八號

陸軍刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ陸軍刑法施行前ニ
公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

六一七

海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件 六一八

○海軍刑法施行前ニ公布シタル

命令ニ關スル件 明治四十一年九月
勅令第三百十九號

海軍刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ海軍刑法施行前ニ
公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍治罪法

明治四十一年十月
法律 第二號

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁
判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキ
ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ
軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル
者ヲ謂フ

海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シ
タル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅

陸軍治罪法

團長及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各團管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ依リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	士	被	告	人
佐官一名	尉官	四名	陸海軍下士	以下ノ軍人	

陸軍治罪法

佐官一名	大尉若クハ中尉	大尉若クハ中尉	大佐若クハ中佐	大佐一名	少將一名	中將一名
大尉若クハ中尉 二名	大尉 二名	中尉 二名	大尉若クハ中尉 二名	大佐 二名	少將 二名	中將 二名
陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人

中將一名	大將一名	大將一名
中將 二名	大將 一名	大將 二名
陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人	陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人	陸海軍大將

第二表

判士長	判士	被告
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以下ノ軍人

佐官一名	大尉若クハ 中尉 少尉	二名	陸軍少尉及ヒ同等 ノ陸海軍人並ニ准 士官
佐官一名	大尉 中尉	二名	陸軍中尉及ヒ同 等ノ陸海軍人
大佐若クハ 中佐	大尉 少尉	二名	陸軍大尉及ヒ同 等ノ陸海軍人
大佐一名	中尉 少尉	二名	陸軍少尉及ヒ同 等ノ陸海軍人
少將一名	大佐 中佐	二名	陸軍中佐及ヒ同 等ノ陸海軍人
中將一名	少將 大佐	二名	陸軍大佐及ヒ同 等ノ陸海軍人

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

- 一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人
- 三 告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再審及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但闕席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラズ

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其他ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ

構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役間ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帯犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ著手シタル軍法會議

ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帯シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第三十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充

ツ

一 憲兵ノ將校下士

二 師團副官

三 旅團副官

四 警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知

陸軍治罪法

ヲタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ヌ可シ

理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲ヌ可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ヌ可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪

輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ヌ可シ

第三十八條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ之ヲ交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ

其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ

長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ
第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ
- 二 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ
- 三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ

具申ス可シ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノ

ニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判

ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ罰金以下ノ刑

ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セ

サルトキハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人

ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐れアルトキ又ハ未遂罪

ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スル

ノ恐れアルトキハ直ニ拘引狀ヲ發ス可シ

第五十條 拘引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ク可キ被告人遠

隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事

司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司

法警察官ニ召喚狀ノ送達拘引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ

之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ

收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得
 若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其他ノ理事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得
 收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ハ受ク可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ
 被告人海軍艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラズ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑托スルコトヲ得

第五十八條 理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑托スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得 證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得 證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本

條ノ處分ヲ囑托スルコトヲ得

第六十條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者
- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

- 八 十六歳未満ノ者
- 九 智覺精神ノ不充分ナル者
- 十 瘖啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ
急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メニ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコ

トヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得、若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置クヘシ

第六十四條 理事ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲

メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日内ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ
前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ
證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス
第六十六條 理事ハ通事宜誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ

肯セサルトキト又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得
證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル陸軍檢察官司警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ關ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條 判士長ハ開庭ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得
法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ
若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑
文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可
シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲
ス可シ

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事
ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第
五章ノ例ニ依ル

第七十九條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定
ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セ
サルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金

料料ヲ科ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科
料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
第八十條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ
理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシムヘシ
理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ
若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルト
キハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲
サシム可シ

共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲
シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者高
等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シ

タル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ關席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得
第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

- 一 判決ノ理由
- 二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
- 三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト
- 四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢佳所判決ノ年

月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ

陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官ニ於テ裁判宣告令ノ命ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍

法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ

前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判
宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ
下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七

條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキ

ハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ

意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シ

タル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可

シ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事

録事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上

ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條 被告人關席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ

對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定マル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ冤訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條

軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十八條 闕席判決ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知り若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日内ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス

罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲スコシ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲スコシ

理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申スコシ闕席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第一百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係

ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復権

第百二條 復権ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復権願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添へ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添へ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ満期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ監規ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作り一切ノ書類ヲ添へ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條 陸軍大臣復権ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百五條 復権ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシムヘシ

理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第六百六條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ

復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第七百七條 持赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍

大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第八百八條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第九百九條 陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第十百十條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第十百十一條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ノ申請ニ係ルモノハ其理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

○陸軍治罪法執行規則

明治二十一年十一月
陸軍省第二百四號達

第一條 陸軍檢察官各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令理事檢察ノ處分ヲ終リ陸軍大臣若クハ長官ニ具申スルトキハ左ノ書類物品ヲ添フ可シ

- 一 被告人調書
- 二 被害届
- 三 私訴ノ請求書
- 四 證據人調書
- 五 證據物品其他參考書類
- 六 鑑定書
- 七 檢證調書
- 八 所在分明ナラサル被告人ノ人相書
- 九 書類及ヒ物品目錄

陸軍治罪法執行規則

被告人所屬ノ長官隊長檢察ノ處分ヲ爲シ具申ヲナストキハ
被告人ノ前罰科（宣告書アレハ其全文）素行調書ヲ添フ可
シ

第一條ノ二 刑ノ執行猶豫ヲ取消スヘキ事由アルトキハ理事
陸軍檢察官若ハ陸軍治罪法第三十二條第一項ニ記載シタル
諸官關係書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ陸軍大臣若ハ長官ニ具申スヘ
シ

刑法第五十二條若ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ
トキ亦前項ニ同シ（四十一年九月陸軍省達令）
（第六十三號ヲ以テ追加）

第二條 長官審問若クハ審判判決ノ命令ヲ下ストキハ命令書
ヲ訴訟書類ト共ニ理事ニ下付ス可シ
裁判管轄ニアラサルモノ及ヒ命令ヲ下ス可カラサルモノハ
其書類ヲ返還ス可シ

第二條ノ二 陸軍刑法施行法第二十七條第二十九條ニ依リ判

決ヲ爲スヘキトキハ前二條ノ例ニ依ル（四十一年九月陸軍省達令）
（第六十三號ヲ以テ追加）

第三條 理事陸軍大臣若クハ長官ヨリ被告事件ノ下付アリタ
ルトキハ錄事ヲシテ其事件及ヒ所管隊號氏名等ヲ帳簿ニ登
記セシメ審問判決ヲ爲スノ手續ヲ爲ス可シ

第四條 召喚狀ヲ發スルトキ被告人軍人ナルトキハ其所屬ノ
官廳本隊若クハ被告事件ヲ具申シタル檢察官ニ移シテ送付
ノ處分ヲ求ム可シ若シ護送ヲ要スルトキハ之ヲ求ムルコト
ヲ得但營外居住ノ者ニ係ルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷
セシムルコトヲ得

被告人所在ノ地ニ所屬官廳若クハ本隊アラサルトキハ本人
ニ交付シ出廷セシム可シ

第五條 令狀執行ノ命令ヲ受ケタル者之ヲ執行シ若クハ執行
スル能ハサルトキハ其旨ヲ理事ニ報告ス可シ

第六條 召喚狀勾引狀ヲ以テ出廷セシメタル被告人ニ收禁狀

ヲ發シ若クハ留置ヲ命シタルトキハ看守卒若クハ憲兵卒ヲ以テ監獄ニ護送セシム可シ憲兵ノ設ケナキ地ニ在テハ衛兵ヲシテ護送セシムルコトヲ得
勾引狀ヲ以テ監獄ニ護送セシムルトキハ亦前項ノ例ニ依ル可シ

第七條 勾引狀ヲ以テ留置スル期限ハ休暇ノ日ヲ算入セサルモノトス

第八條 罰金以下ノ刑ニ該ルモノト認ムルトキト雖モ其被告人遠隔ノ地ニ在ル軍人ニシテ營内居住ノ者ナルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第九條 被告人ヲ收禁留置シ若クハ收禁留置ヲ取消シタルトキハ理事被告人所屬ノ官廳若クハ本隊及ヒ監獄ニ通報ス可シ他管ノ軍人ヲ收禁留置シタルトキハ本管軍法會議ニモ之ヲ通報ス可シ其委任以上及ヒ帶勳者ニ係ルトキハ之ヲ長官

ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ但帶勳者ニ係ルトキハ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續第八條ニ依リ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 外國公使館内ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ要シ若クハ令狀ヲ受クヘキ者外國公使館ニ雇ハレ若クハ外國公使館内ニ住居スル者ニ係ルトキハ其理事其事實ヲ記シ其公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ長官ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ
陸軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ理事其旨ヲ公使館官吏ニ告ケ檢證處分ヲ爲シ若クハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ令狀執行者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシム可シ

第十一條 被告人ヲ責付シタルトキハ理事被告人ヲシテ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷スヘキノ證書ヲ出サシメ且ツ責付セラレタル者ヲシテ注意視察スヘキ旨ノ證書ヲ出サシム可シ被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサルトキハ責付ヲ取消ス可シ

第十二條 證人鑑定人通事事實參考人參考ノ爲メ鑑定ヲ命スヘキ者軍人ナルトキハ其所屬ノ官廳若クハ本隊ニ呼出狀ヲ移シテ其出廷ヲ求ム可シ但營外居住ノ者ナルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムルコトヲ得
其地ニ所屬官廳若クハ本隊アヲサルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシム可シ

第十三條 判士長理事證人鑑定人等ニ罰金科料ヲ科スルトキハ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ宣告ス可シ判士長宣告ヲ爲ストキハ理事之ニ立會ヲ可シ

呼出ニ應セサルニ因リ罰金科料ヲ科セラレタル者營内居住ノ者ナルトキハ理事宣告書ヲ本人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ移シテ其送達ヲ求メ其ノ罰金科料ヲ納完セシムヘキ旨ヲ照會シ營外居住ノ者ナルトキハ直チニ宣告書ヲ其ノ住所ニ送達ス可シ

判士長ノ科シタル罰金科料ノ宣告書ハ判士長錄事署名捺印シ理事ノ科シタル罰金ノ宣告書ハ理事錄事署名捺印ス可シ罰金科料ノ宣告ヲ爲シ若ハ其罰金ノ宣告ヲ取消シタルトキハ第二十九條ノ例ニ從ヒ理事之ヲ本人所屬ノ官廳若クハ本隊及市町村長ニ通報ス可シ

證人鑑定人等ヲ勞役場ニ留置スル手續及留置期間内罰金科料ヲ納完シタル場合ノ處分ハ第三十一條及第三十八條ノ例ニ依ルヘシ(四十二年九月陸軍省達令第六十三號ヲ以テ改正)

第十四條 理事被告事件裁判管轄ニ非ス若クハ冤訴ト爲スヘ

キノ具申ヲ爲シ陸軍大臣若クハ長官ノ認可アリタルトキハ
言渡書ヲ作り録事ト共ニ署名捺印シ法廷ニ臨ミ之ヲ被告人
ニ讀示シ裁判管轄ニ非サルモノハ其事件ヲ管轄スル軍法會
議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所ト
ノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡クルノ後其地ノ檢事ニ送
致シ違警罪事件ナルトキハ管轄ノ憲兵隊若クハ警察署ニ送
致ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スルトキハ第六條ニ從フ可シ若シ送致ス
可キ地遠隔ナルトキハ地方警察署ニ傳遞護送ヲ囑託ス可シ
但便宜ニ依リ兵員ヲ以テ護送セシムルコトヲ得

第十五條 理事免訴若クハ管轄違ヒノ言渡ヲ爲シタルトキハ
其旨ヲ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊及民事原告人ニ通報シ
被告人收禁留置ニ係ルトキハ之ヲ監獄ニ通報ス可シ

第十六條 直チニ判決ニ付セラレタル事件ニ於テ判士長若ク

ハ理事審問ヲ必要ト認ムルトキハ其旨ヲ命令ヲ下シタル陸
軍大臣若クハ長官ニ具申スルコトヲ得

第十七條 判決ノトキニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シ
理事其審問ヲ爲シタルトキハ意見書ヲ出ス可シ

第十八條 軍法會議ノ判決ハ過半数ノ說ヲ以テ之ヲ決ス其說
三說以上ニ分レ過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ
被告人ニ不利ナル說ヨリ順次利益ナル說ニ合算ス賠償ノ金
額ニ關シ三說以上ニ分レ其說過半数ニ至ラサルトキハ過半
數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス

第十九條 發說ノ順序ハ下級ノ者ヨリ其說ヲ述ヘ順次上級ニ
遡ホル可シ若シ同級ノ者二人以上ナルトキハ其同級中新任
ノ者始メニ其說ヲ述フ可シ

第二十條 被告人證人事實參考人ノ陳述前ニ陳述シタル所ト
異ナルトキハ録事其要領ヲ記錄シ判士長及ヒ理事ト共ニ署

名捺印シ訴訟書類ニ添置ク可シ

第二十一條 高等軍法會議ニ於テ再審ニ就キ直チニ判決ニ付スルノ命令ヲ受ケタルトキ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ要セサルモノト爲ストキハ其訊問ヲ爲サスシテ判決ヲ爲スコトヲ得但闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス其宣告ハ宣告書ヲ被告人所在ノ地ノ長官ニ移シテ其所屬軍法會議ニ於テ之レヲ爲サシムルモノトス

違警罪ノ正式裁判ニ於テモ亦本條ノ例ニ從フコトヲ得

第二十二條 再審ノ裁判アリタルニ依リ更ニ刑ヲ執行スヘキトキハ其刑ヨリ先キニ受ケタル刑ヲ控除スルモノトス

第二十三條 損害陸軍官署若クハ軍人ニ係ルトキハ理事被害者ニ返還賠償ノ請求ハ本案終結前ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ通知ス可シ

第二十四條 裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ

一 勅任官

二 奏任官

三 判任官以下

第二十五條 無罪免訴若クハ罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事直チニ被告人ヲ放免ス可シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタルトキ亦同シ(四十二年九月陸軍省達令第六十三號ヲ以テ改正)

重罪ノ刑及ヒ禁錮拘留並ニ懲治場ニ留置スルノ宣告アリタルトキハ被告人ヲ監獄ニ交付ス可シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキ亦同シ(同上)

管轄違ノ宣告アリタルトキハ其事件ヲ管轄軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所ト管轄違ノ宣告アリタルトキハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ其地ノ檢事ニ送致ス可シ

前數項ノ處分ヲ爲ストキハ裁判宣告書ヲ添へ收禁ニ係ラサ

被告人ヲ監獄ニ交付シ其他陸軍檢察官若クハ檢事ニ被告
人ヲ交付スルトキハ第六條第十四條末項ニ從ヒ護送セシメ
收禁留置ニ係ル被告人ヲ放免シ及ヒ他方ニ移ストキハ其旨
ヲ監獄ニ通報ス可シ

第二十六條 徒流懲役禁獄ノ刑ニ處スル者陸海軍刑法劊官ヲ
附加スル禁錮若クハ普通刑法禁錮ノ刑ニ處スル將校軍屬禁
錮ノ刑ニ處スル常人並ニ微治場ニ留置スル者ノ交付ヲ受ケ
タルトキハ監獄長裁判宣告書ヲ添へ其地方監獄ニ送付ス可
シ若シ其監獄遠隔ナルトキハ第十四條末項ノ例ニ從フ可シ
第二十七條 刑ノ宣告ヲ受ケタル者帶勳者ニ係ルトキハ理事
之ヲ長官ニ具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣
ニ具申ス可シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受タル者及其言渡ノ取
消ヲ受ケル者帶勳者ニ係ルトキ亦同シ(四十二年九月陸軍省令
第六十三號ヲ以テ改正)
長官ノ勳章年金褫奪停止取扱手續第二條第七條ニ從ヒ處分

ス可シ

第二十八條 私訴ノ裁判宣告ヲ爲ストキ被害者官署ニ係リ若
クハ軍人ニシテ其地ニ在ラサルトキハ其宣告書ヲ被害者ニ
送致ス可シ

第二十九條 有罪無罪ヲ問ハス裁判宣告アリタルトキハ理事
宣告書ヲ添へ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ通報シ死刑ノ
執行アリタルトキハ榜示公告スヘキコトヲ市町村長ニ照會
ス可シ

關席ノママ宣告シタルモノニ係ルトキハ其宣告書ヲ被告人
ノ現住所ニ送達シ被告人營内居住ノ者ニシテ逃亡中ナルト
キハ本管若クハ寄留ノ住所ニ送達ス可シ
刑ノ宣告及再審ノ裁判ニ於テ無罪免訴ノ宣告アリタルトキ
ハ其旨ヲ被告人本籍ノ市町村長ニ通報シ他官ノ軍人ニ係ル
トキハ本管軍法會議ニモ通報ス可シ(四十一年九月陸軍省令
第六十三號ヲ以テ改正)

第二十九條ノ二 陸軍刑法施行法第二十七條乃至第二十九條

ニ依リ判決ノ言渡ヲ爲シタルトキハ前條ノ例ニ依ル但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタル軍法會議刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ト異ルトキハ猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ニモ通報スヘシ(四十一年九月陸軍省達令第六十三號ヲ以テ本條追加)

第二十九條ノ三 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所屬ニ

異動アリタルトキハ舊所屬長官ヨリ宣告書(別ニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルモノナルトキハ其ノ言渡書トモ)ヲ添へ本人ノ刑ノ執行猶豫中ナル旨ヲ新所屬長官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ舊所屬長官猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ノ長官ニ非サルトキハ本人ノ所屬ニ異動アリタル旨ヲ猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ノ長官ニモ通知スヘシ(同上)

第二十條 罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事之ヲ納完セシ

ム可シ其被告人營内居住ノ者ナルトキハ所屬隊長ニ照會シテ完納セシム其監獄ニ在ルトキハ監獄長ニ照會シ監獄長之ヲ隊長ニ照會ス可シ

第三十一條 勞役場留置ノ言渡ヲ執行スルトキハ理事録事ト共ニ法廷ニ臨ミ其ノ旨ヲ被告人ニ告知シ勞役場ニ交付スヘシ

留置期間内罰金科料ヲ納完シタルトキハ理事放免ノ處分ヲ爲スヘシ

被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ勞役場留置ノ言渡書ヲ被告人所在地ノ軍法會議ノ理事ニ送付シ其ノ處分ヲ求ムヘシ但シ其ノ地ニ勞役場ナキトキハ言渡書ヲ被告人所屬ノ長官隊長若ハ其ノ地ノ憲兵隊長ニ送付シ其ノ執行ヲ求ムヘシ
長官隊長若ハ憲兵隊長ハ營倉若ハ留置場ニ於テ其執行ヲ爲スヘシ

留置期間内罰金科料ヲ納完シタルトキハ勞役場留置ノ言渡書ノ送付ヲ受ケタル理事長官隊長若ハ憲兵隊長ハ放免ノ處分ヲ爲シ其ノ旨ヲ原軍法會議ノ理事ニ通報スヘシ(四十二年九月陸軍省通令第六十三號ヲ以テ改正)

第三十二條 理事前條ニ依リ被告人ヲ勞役場ニ交付シ若ハ放免ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ長官隊長監獄長ニ通報ス可シ

憲兵隊長前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ長官隊長ニ通報スヘシ(四十一年九月陸軍省通令第六十三號ヲ以テ本項追加)

第三十三條 闕席裁判ヲ受ケタル者其犯罪ヲ自首シ若クハ捕ニ就キ其裁判アリタルコトヲ知ラサルトキハ其自首ヲ受ケ若クハ逮捕シタル官署ニ於テ闕席裁判アリタル旨及ヒ法律ニ定ムル期限内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ告ク

可シ其申訴ヲ爲シタル時ハ裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ申訴狀ヲ送致ス可シ

第三十四條 闕席裁判ニ依リ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者自首若クハ捕ニ就クトキハ其宣告ヲ爲シタル軍法會議所在ノ地ノ監獄長ニ交付シ監獄長ハ之ヲ理事ニ通報ス可シ理事前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ被告人所屬ノ官廳若クハ本隊ニ通報ス可シ再審ノ申訴ヲ爲サスシテ其期限盡キタルトキハ監獄長ニ宣告書ヲ移シ刑ノ執行ヲ爲サシム可シ

第三十五條 闕席裁判ニ係ルモノヲ除クノ外再審ニ於テ無罪免訴及ヒ原裁判ヨリ輕キ刑ノ宣告アリタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ榜示公告ス可シ

第三十六條 錄事ハ宣告ノ年月日及ヒ刑名刑期等ヲ遺漏ナク簿冊ニ登記ス可シ

第三十七條 死刑執行ノ命令アリタルトキハ理事豫メ其期日ヲ定メ之ヲ長官ニ具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ警官憲兵並ニ隊兵出場ノ處分ヲ爲シ且監獄長ヲシテ死刑執行ノ準備ヲ爲サシム可シ

第三十八條 死刑ヲ執行スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ理事監獄長警官録事之ニ會同シ監獄長死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後小銃ヲ以テ之ヲ射殺ス其護送及ヒ執行ハ本人所屬ノ隊兵一小隊ヲ以テ之ニ充テ隊外若クハ其地ニ所屬本隊アラサル者ニ係ルトキハ歩兵一小隊ヲ以テ之ニ充ツ

第三十九條 死刑ヲ行フトキ刑場ノ警戒ハ憲兵ヲシテ之ヲ爲サシメ憲兵ノ設ケナキ地ニ在テハ衛兵ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第四十條 死刑執行ノ始末書ハ録事之ヲ作り理事監獄長警官

録事署名捺印ス可シ

第四十一條 死刑ノ執行終リタルトキハ監獄長看守長書記ヲシテ埋葬ノ處分ヲ爲サシム可シ

遺骸ノ下付ヲ請フモノアルトキハ看守長書記ヲシテ其下付ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四十二條 長官ハ事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此條例ヲ變更省略スルコトヲ得

第四十三條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言渡ニ對シ上告スル者アルトキハ理事辯明書ヲ作り訴訟文書ニ添ヘ長官ヲ經由シ高等軍法會議ニ在テハ陸軍大臣ヲ經由シ之ヲ大審院ニ送致ス可シ

第四十四條 理事特赦狀ノ下付ヲ受ケ其傳達ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ本人所屬ノ官辦本隊並ニ本籍ノ區長ニ通知ス可シ

海軍治罪法

明治二十二年二月
法律第五號

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス（二十二年法律第二十六號改正ニ依ル）

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之レヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ陸軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ

司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第四百十四條第四百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第一百條第一百一條第一百三十三條第三項第四百四十六條第五百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スル

コトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議

鎮守府軍法會議

艦隊軍法會議

高等軍法會議

合圍地軍法會議

東京軍法會議及ヒ各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合圍地軍法會議ハ臨戰合圍ノ戒嚴間之ヲ設ケ

第十條 軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ錄事

ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ
他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ
臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被告人
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以下ノ軍人
佐官一名	大尉二名 少尉二名	海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官

佐官一名	大尉(奏任官四等) 大尉(同五等) 二名若クハ三名	海軍大尉(奏任官五等)及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐一名	少佐 大尉(奏任官四等) 二名若クハ三名	海軍大尉(奏任官四等)及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐(奏任官一等)	大佐(奏任官二等) 二名若クハ三名 少佐 二名若クハ三名	海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人
少將一名	大佐(奏任官一等) 二名若クハ一名 大佐(同二等) 二名若クハ三名	海軍大佐(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人
中將一名	少將 大佐(奏任官一等) 二名若クハ一名 大佐(奏任官二等) 二名若クハ三名	海軍大佐(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人
中將一名	中將 少將 二名若クハ一名 二名若クハ三名	海軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人

大將一名	中將 少將	三名若クハ二名 一名若クハ三名	海軍中將及ヒ同等 ノ陸海軍人
大將一名	大將 中將	一名 三名	陸海軍大將

第二表

判士長	判士	被告人
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以 下ノ軍人
佐官一名	大尉 少尉	海軍少尉及ヒ同等 ノ陸海軍人並ニ准 士官

佐官一名	大尉(奏任官四等) 大尉(同五等)	海軍大尉(奏任官 五等)及ヒ同等ノ 陸海軍人
大佐一名	少佐 大尉(奏任官四等)	海軍大尉(奏任官 四等)及ヒ同等ノ 陸海軍人
大佐(奏任官一等)	大佐(奏任官二等) 少佐	海軍少佐及ヒ同等 ノ陸海軍人
少將一名	大佐(奏任官一等) 大佐(同二等)	海軍大佐(奏任官 二等)及ヒ同等ノ 陸海軍人
中將一名	少將 大佐(奏任官一等)	海軍大佐(奏任官 一等)及ヒ同等ノ 陸海軍人

第十二條 軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判ス可キトシ

ハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條 外國又ハ戰地ニ數隻ノ船艦ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開クノ權ヲ附與スルコトヲ得 此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ同シ

第十四條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若クハ艦隊ニ於テハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

艦隊ニ於テ判士ト爲ル可キ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

鎮守府若クハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スラ要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

第十七條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テ司令官ハ其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任官ヲ以テ録事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

- 一 被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再

審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス

海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ

得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士

長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判

士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審

判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用

ニ供スル船舶ノ乗員ニシテ罪ヲ犯シタル者(二十二年法

律第二十六號改正ニ依ル)

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル

者

第二十二條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎮

守府ノ用ニ供スル船舶ノ乗員ニシテ罪ヲ犯シタル者(同

上)

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル

者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦

隊司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他從軍諸員及ヒ

艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乗員ニシテ罪ヲ犯シタル者ヲ審判

ス(同上)

艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項

ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法會議ニ委スルコトヲ得
艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要スル場合ニ於テハ直チ
ニ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其事由ヲ速ニ其艦隊司令長
官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官
若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者内ニ在テ犯罪發覺シタル
トキハ本人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ
第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍区内ニ於テ罪
ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ
之ヲ審判スルコトヲ得(同上)

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯シタ
ル罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス(同上)

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十
三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル罪ヲ

審判ス(同上)

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判
シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルトキ
ハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル
軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ被告人ノ身
分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法
會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ
現役ヲ去リタル後告訴發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁
判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ

各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキモ亦同シ(二十二年法律第二十六號改正ニ依ル)

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帯シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十七條 海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 艦船營副長分隊長
- 二 生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事
- 三 衛兵司令
- 四 軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條 各廳長及ヒ艦船管長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條 海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乗員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス可シ

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條 海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得
其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒

巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致スヘシ

第四十六條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ
各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條 海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條 海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ

逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 海軍檢察官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊

ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由ス可シ

二 違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ

三 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ

送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第五十二條 長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條 主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發スヘシ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條 主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第五十五條 主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

又其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條 勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ヲ受ク可キ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルルハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ
勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戸長若クハ鄰佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラヌ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條 主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得
其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條 主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得
證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコト

ヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑

ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者

- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未滿ノ者
- 九 知覺精神ノ不充分ナル者
- 十 暗啞者

第六十六條 主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ
急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルト

キハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣誓セシム可シ
主理ハ通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添へ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ
前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ
證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ依リ委託ヲ受ケタ

ル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ

肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル

者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可

シ

第七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル

爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條

ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定

ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金

ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之

ヲ爲ス可シ

第七十四條 主理ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書

ヲ作リタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出ス
コトヲ得

第七十五條 主理審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シ

タルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍

法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物

件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ

送致ス可シ

第七十七條 主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコ

トヲ得但艦船營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十八條 主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審

問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲

スヘシ

一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書

ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十九條 長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第八十條 軍法會議ハ判士長判士主理録事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ
主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告ナルトキハ本案件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ料ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人

ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ヌ可シ

第八十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條 主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スヘシ會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ

其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第九十一條 判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日

第九十二條 長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏スヘシ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ

下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條 臨戦合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條 海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理録事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ關席裁判ノ宣告ハ被告人關席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ關席ノママ宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ拘引狀執行ノ例ニ從フ若シ其所在分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條 被告人關席ノママ宣告ヲ爲シタトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第一百條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章 再審

第一百一條 海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告

シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第二百二條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノ

アルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得
被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ

三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ア

リタルトキ

六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第二百三條 海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ

第二百四條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ

出シ主理意見書ヲ添フ可シ
長官ハ審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ
之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ
海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審
セシム可シ

第百五條 海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ
係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百六條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルト
キハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第百七條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ
經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲
スコトヲ得

其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書

類ヲ添へ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ
爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添へ海軍大臣ニ
出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコト
ヲ説明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコト
アルトキハ其證書

四 賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百八條 海軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキ
ハ主理ヲシテ更ニ必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上
奏ス可シ

第百九條 復權ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ

地方長官ヲ經テ裁可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ

主理ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百十條 復權ノ願棄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ主理ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ

復權ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第百十一條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主理若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ

其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百十三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第百十五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ
 主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

○海軍治罪法執行規則

明治二十四年九月
 海軍省第百八十三號

第一章 檢察

- 第一條 海軍檢察官犯罪ノ搜查ヲ爲シタルトキハ搜查始末書ヲ作り事證ト爲ス可シ
- 第二條 海軍檢察官口述ヲ以テ爲シタル告訴告發ヲ受ケタルトキハ之ヲ錄取シ告訴人告發人ニ讀聞セ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ
- 第三條 代人ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル者ニハ其告訴狀告發狀ニ代人タルノ事由ヲ附記セシム可シ
- 第四條 告訴人告發人ニハ證人ノ氏名其他成ル可ク事實ノ證憑參考ト爲ル可キコトヲ申立シム可シ
- 第五條 海軍檢察官ハ告訴告發ノ事件ヲ分明ナラシムル爲メ其告訴人告發人若クハ其關係人若クハ被告人ヲ訊問スルコ

トアル可シ但シ外國公使館ニ雇ハレ若クハ其館内ニ在ル者ナルトキハ第二十六條ノ例ニ從フ可シ

其訊問ヲ爲シタルトキハ第二條ノ例ニ從フ可シ

第六條 告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ證書ヲ渡ス可シ

第七條 告訴人告發人其陳述ヲ變更センコトヲ請求シタルトキハ其陳述ヲ錄取シ之ヲ告訴告發狀ニ添ヘ置ク可シ

第八條 告訴人告發人ヨリ其願下ヲ爲ストキハ願書ヲ出サシメ聞届ノ旨ヲ朱記シテ本人ニ下附シ訴訟書類ニ其事由ヲ記入シ置ク可シ

第九條 海軍檢察官ハ告訴人告發人ノ願下ケアルニ拘ハラヌ其事件有罪ナリト認メタルトキハ海軍治罪法第五十一條ノ手續ヲ爲ス可シ但告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ハ此限ニ在ラヌ

第十條 軍人職務上ニ因リ告發ヲ爲ストキハ其官職氏名ヲ記シタル書面ヲ以テシ海軍檢察官ハ之ヲ受ケタルノ證書ヲ渡ス可シ

第十一條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲ストキハ第二章ノ例ニ依ル

第十二條 告訴人本案附帶ノ私訴ヲ爲シタル後其願下若クハ棄權ノ申立ヲ爲シ若クハ其要求ノ變更ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ要求書ニ記入シ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第十三條 海軍檢察官ハ犯罪人自首スルトキ口述ヲ以テスルモノハ其口述ヲ錄取シ書面ヲ以テスルモノ尙ホ推問ヲ要スルモノハ之ヲ推問シ其調書ヲ作ル可シ

第十四條 海軍檢察官現行犯ノ場合ニ在テハ審問ニ屬スル檢證訊問其他ノ處分ヲ爲スト雖モ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者ニ對シテハ宣誓ヲ用フルコト無カル可シ又罰金ヲ科スルコトヲ得ス

第十五條 海軍檢察官現行犯ノ場合ニ於テ被告人證人事實參

考人其他訴訟關係人ヲ訊問シタル時ハ調書ヲ作り之ヲ本人

ニ讀聞セ其陳述ニ相違アルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム可シ

若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第十六條 各廳長艦船團隊長自ラ檢察ノ處分ヲ爲ストキハ前

數條ノ手續ニ從フ可シ

第十七條 海軍檢察官各廳長艦船團隊長檢察ノ處分ヲ終リ海

軍大臣若クハ長官ニ具申スルトキハ左ノ書類ヲ添フ可シ但

艦船團隊長及ヒ學校長ノ部下ニ屬スル海軍檢察官之ヲ具申

スルトキハ被告人ノ所屬長ヲ經由ス可シ

一 搜查始末書

二 被告人調書

三 被害屆書

四 私訴ノ要求書

五 證人調書

六 證據物品目錄證據書類其他參考書類

七 鑑定書

八 檢證調書

九 所在分明ナラサル被告人ノ人相書

被告人ノ所屬長檢察ノ處分ヲ爲シ具申ヲ爲ストキ若クハ其

部下ニ屬スル海軍檢察官ノ檢察具申ヲ進達スルトキハ被告

人ノ前罰科(宣告書アレハ其全文)素行調書ヲ添フ可シ

第十八條 被告事件罪ト爲ラス又ハ受理ス可カラサルモノナ

ルトキハ前條ノ手續ヲ爲ス可カラス但告訴人アルトキハ其

旨ヲ告知シ被告ヲ收禁シタルトキハ直チニ釋放ス可シ

第二章 審問及判決

第十九條 長官審問若クハ審判判決ノ命令ヲ下ストキハ命令

書ヲ訴訟書類ト共ニ主理ニ下付ス可シ

艦隊ニ在テハ長官其部下ノ將校若クハ相當官ニ主理ヲ命シ以テ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

裁判管轄ニ非ルモノ及ヒ命令ヲ下ス可カラサルモノハ其書類ヲ返還ス可シ

第二十條 主理審問審判判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ其命令ヲ受ケタル日ヨリ遅クトモ五日以内ニ被告人ヘ召喚狀ヲ發スルノ手續ヲ爲ス可シ

第二十一條 召喚狀ヲ發スルトキハ被告人艦船團隊若クハ學校所屬ノ者アルトキハ其所屬ノ艦船團隊校若クハ被告事件ヲ具申シタル檢察官ニ移シテ送達ノ處分ヲ求ム可シ但艦船團隊校所屬ノ者ト雖モ艦船團隊校外ニ在ルトキハ直チニ本人ニ送達シ出廷セシムルコトヲ得

第二十二條 拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ヲ留置シタルトキハ之ヲ其所屬長ニ通報ス可シ但留置ノ期限ハ休暇ノ日ヲ

算入セサルモノトス

第二十三條 收禁狀ヲ發シ若クハ之ヲ取消シタルトキハ主理ヨリ直チニ被告人ノ所屬長ニ通報シ其高等官ニ在テハ尙ホ所管長官ニ具申シ長官ハ海軍大臣ニ具申ス可シ

被告人帶勳者ナルトキハ勳章年金褫奪及停止取扱手續第八條ニ依リ其處分ヲ爲ス可シ

第二十四條 被告人ヲ收禁シタルトキハ之ヲ監獄ニ送致ス可シト雖モ訊問其他取調ノ都合ニ依リ假ニ留置所ニ留置スルコトヲ得但此場合ニ於テハ主理ヨリ監獄課長ニ通知ス可シ其被告人ヲ護送スルトキハ下士衛兵又ハ監護ヲシテ之ヲ護送セシム可シ

第二十五條 令狀ハ二通ヲ作り之ヲ送達若クハ執行シタルコト及ヒ其日時場所ヲ記入シ其一通ヲ本人ニ渡シ一通ヲ録事ニ還納シ録事ハ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ但執行スルコ

ト能ハサルトキハ其旨ヲ記入ス可シ

第二十六條 外國公使館内ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ要シ若クハ令狀ヲ受ク可キ者外國公使館ニ雇ハレ若クハ外國公使館内ニ在ルトキハ主理其事實ヲ記シ其公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

海軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ主理其旨ヲ公使館官吏ニ告ケ檢證處分ヲ爲シ若クハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ令狀執行者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシム可シ

第二十七條 被告人ヲ責付シタルトキハ主理責付セラレタル者ヲシテ注意視察シ且何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシム可キノ證書ヲ出サシム可シ

被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサルトキハ責

付ヲ取消ス可シ

被告人ヲ責付シタルトキハ其所屬長ニ通知ス可シ

第二十八條 證人鑑定人通事事實參考人參考ノ爲鑑定ヲ命ス可キ者軍人ナルキハ第二十一條ノ例ニ依リ之ヲ呼出ス可シ

第二十九條 判士長判士主理ニ於テ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者ニ罰金ヲ科スルトキハ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ宣告ス可シ判士長宣告ヲ爲ストキハ主理之ニ立會フ可シ

呼出ニ應セサルニ因リ罰金ヲ科セラレタル者艦船團隊若クハ學校居住ノ者ナルトキハ主理宣告書ノ謄本ヲ本人所屬ノ艦船團隊若クハ學校ニ移シテ其送達ヲ求メ且罰金ヲ限内納完セシム可キ旨ヲ照會シ其他ハ直チニ宣告書ヲ其住所ニ送達ス可シ

判士長ノ科スル罰金ノ宣告書ハ判士長錄事署名捺印シ主理

ノ科スル罰金ノ宣告書ハ主理録事署名捺印ス可シ

罰金ノ宣告ヲ爲シ若クハ其宣告ヲ取消シタルトキハ主理之

ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ又其本人軍人ナルトキハ其

所屬長ニ通報シ海軍治罪法第十條ニ依リ罰金ヲ科シタルト

キハ其本籍ノ市町村若クハ區戸長ニ通報ス可シ

限内罰金ヲ納完セサルトキハ第六十條ノ例ニ從フ可シ

第三十條 臨檢若クハ家宅搜索ノ場所ニ於テ物件ヲ押收シタ

ルトキハ縁事ヨリ立會人ニ受領證ヲ渡ス可シ其物件ヲ還付

シタルトキハ受領證ヲ返還セシム可シ

押收シタル物件ノ運送若クハ保管ノ事ハ縁事之ヲ擔任スハ

シ其物件ヲ運送スルコト能ハサルトキハ縁事立會人ニ假預

ヲ爲ス擔保ノ證書ヲ徵ス可シ但其物件ニ封印ヲ要スルトキ

ハ主理其封印ヲ爲ス可シ

第三十一條 調書説明ノ爲メ呼出シタル官吏ノ陳述ハ録事之

ヲ錄取シ主理録事其官吏ト共ニ署名捺印シ調書ニ添ヘ置ク
可シ

第三十二條 主理審問ニ於テ覺擧シタル共犯者附帶犯者ヲ審

問シタルトキハ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ

第三十三條 主理裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キノ具

申ヲ爲シ其認可アリタルトキハ言渡書ヲ作り録事ト共ニ署

名捺印シ主理録事法廷ニ臨ミ主理其言渡ヲ爲シ其裁判管轄

ニ非サルモノハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ海

軍檢察官若クハ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所

トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡クルノ後其地ノ檢事ニ

送致ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スルトキハ下士衛兵又ハ監護ヲシテ護送

セシム可シ

免訴ノ言渡ヲ爲シタルトキ被告人收禁セラレタルトキハ直

チニ之ヲ釋放ス可シ

第三十四條 主理前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ且被告人ノ所屬長ニ通報ス可シ若シ被告人收禁ヲ受ケタル者ナルトキハ監獄課長ニ通報シ責付ヲ受ケタル者ナルトキハ其親屬故舊ニ告知ス可シ

第三十五條 主理海軍治罪法第七十八條ニ依リ意見書ヲ作ルトキハ同第九十一條ノ例ニ從テ之ヲ作り且加重減輕ス可キトキハ其模様及ヒ私訴ニ對スル意見ヲモ記載ス可シ

第三十六條 附帶ノ私訴アリタル事件ニシテ免訴若クハ管轄違ノ言渡アリタルトキハ主理ヨリ其告訴人ニ告知ス可シ

第三十七條 直チニ判決ニ付セラレタル事件ニ於テ判士長若クハ主理審問ヲ必要ト認ムルトキハ其命令ヲ下シタル海軍大臣若クハ長官ニ之ヲ具申スルコトヲ得

第三十八條 法廷ノ席次左ノ如シ

四 川 一 川 五

○主理

○判士

○判士

○判士

○判士

○判士

○錄事

職務上及ヒ
調書説明

○委任官證人

職務上及ヒ
調書説明

○委任官證人

○判任官證人

○判任官證人

○ 被告人

- 證人
- 證人

○ 被告人 此位置ハ控訴下
 士存ヲ分タス

○ 法廷取締

第三十九條 判士長ハ被告人ノ官位勳爵職名氏名族籍年齡住所前科ノ有無ヲ問ヒ被告事件ヲ訊問スル旨ヲ告ケ録事ヲシテ主理ノ爲シタル訊問書ヲ讀示セシムヘシ若シ主理ノ訊問

調書ナキトキハ檢察官ノ爲シタル調書若クハ意見書等被告事件ノ大要ヲ知ルニ足ル可キ書類ヲ讀示セシム可シ

第四十條 録事ハ判決始末書ヲ作り主理ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ但被告人證人事實參考人審問ヲ經タル者ナルトキハ前ニ爲シタル陳述ト異ナル所ノミ其要領ヲ錄取ス可シ

第四十一條 判決ニ必要ナル爲メ檢證處分ヲ爲シ又ハ召喚狀拘引狀收禁狀ヲ爲シ又ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命スル者ヲ要スルニ就テノ手續ハ總テ審問ノ手續ニ同シ

第四十二條 判決ノ時ニ於テ其犯者附帶犯者ヲ覺舉シテ直チニ判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシメタルトキハ判士長ヨリ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ
 前項ノ場合ニ於テ海軍治罪法第十一條第二表ニ照シ共犯者

附帶犯者ノ官等現判士長判士ヨリ高等ノ判士長判士ヲ要ス
ルトキハ判士長之ヲ長官ニ具申シ長官ハ更ニ審問若クハ審
判判決ニ付スルノ手續ヲ爲ス可シ

主理其審問ヲ爲シタルトキハ意見書ヲ判士長ニ交付ス可シ
第四十三條 軍法會議ノ判決ハ過半数ノ説ヲ以テ之ヲ決ス其
説三説以上ニ分レ過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマ
テ被告人ニ不利ナル説ヨリ順次利益ナル説ニ合算ス賠償ノ
金額ニ關シ三説以上ニ分レ其説過半数ニ至ラサルトキハ過
半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス
發説ノ順序ハ下級ノ者ヨリ其説ヲ述ヘ順次上級ニ廻ル可
シ若シ同級ノ者二人以上アルトキハ其同級中後任ノ者始メ
ニ其説ヲ述フ可シ

第四十四條 宣告執行ノ命令アリタルトキハ主理宣告ノ日時
ヲ定メ判士長判士ニ通報シ録事ヲシテ被告人ヲ出廷セシム

ルノ手續ヲ爲サシム可シ

私訴裁判ノ宣告ヲ爲ストキハ其被害者ヲモ出廷セシム可シ
但被害者其地ニ在ラサルトキハ其宣告書ヲ被害者ニ送達ス
可シ

第四十五條 裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ
一 勅任官
二 奏任官
三 判任官以下

第四十六條 主理ハ三月毎ニ審問判決ノ事件表ヲ作り之ヲ海
軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ

長官ハ前項ノ具申書ヲ海軍大臣ニ出ス可シ
第三章 再議再審及特赦

第四十七條 主理ハ再議ニ付スルノ命令アリタルトキハ訴訟
書類ニ意見書ヲ付シテ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判

海軍治罪法執行規則

士長判士ニ通報ス可シ

第四十八條 再議ニ付セラレタル事件原會議ニ於テ取調タル事實明瞭ナラサルトキハ更ニ其取調ヲ爲ス可シ

第四十九條 再審ノ命令アリタルトキハ他ノ事件ヲ閣キ其審判ヲ爲ス可シ

第五十條 再審ノ命令ヲ受ケタルトキ事實明瞭ニシテ更ニ被告入證人ノ訊問ヲ要セサルモノト爲ストキハ其訊問ヲ爲サスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

其宣告ハ宣告書ヲ被告人所在ノ地ノ軍法會議ヲ管轄スル長官ニ移シ其所屬軍法會議ニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス

第五十一條 再審ノ申請ヲ爲スニ付被告人若クハ其親屬ヨリ訴訟書類ヲ謄寫センコトヲ請求スルトキハ主理之ヲ認可シ謄寫セシム可シ

第五十二條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言渡ニ對シ

上告スル者アルトキハ主理辯明書ヲ作り訴訟文書ニ添へ海軍大臣若クハ長官ヲ經由シ之ヲ大審院ニ送致ス可シ

第五十三條 海軍大臣若クハ長官特赦狀ノ下付ヲ受ケタルトキハ之ヲ主理ニ下付シ本人ニ傳達スルノ處分ヲ爲サシム可シ

主理特赦狀ノ下付ヲ受ケ其傳達ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ本人ノ所屬長並ニ本籍ノ市町村長若クハ區戸長ニ通知ス可シ

第四章 宣告執行

第五十四條 收禁ヲ受ケタル被告人ニ對シ無罪免訴若クハ罰

金科料ノ宣告アリタルトキハ主理直チニ之ヲ釋放ス可シ

重罪ノ刑及ヒ禁錮拘留並ニ懲治場ニ留置スルノ宣告アリタルトキハ主理被告人ヲ監獄ニ交付ス可シ

管轄違ノ宣告アリタルトキハ主理其事件ヲ管轄ス可キ軍法

會議所在ノ地ノ海軍檢察官若クハ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ宣告アリタルトキハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ノ檢事ニ送致シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付スルノ宣告アリタルトキハ地方警察署ニ送致ス可シ

前數項ニ依リ被告人ヲ交付スルトキハ第三十三條第二項ニ從ヒ護送セシメ收禁ニ係ル被告人ヲ釋放シ及ヒ他方ニ移ストキハ其旨ヲ監獄課長ニ通報ス可シ

第五十五條 徒流懲役禁獄ノ刑ニ處シタル者陸海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法禁錮ノ刑ニ處シタル將校及ヒ相當官軍屬禁錮ノ刑ニ處シタル常人ノ交付ヲ受ケタルトキハ監獄課長裁判宣告書ヲ添ヘ其地方監獄ニ送付ス可シ

第五十六條 再審ノ裁判ニ依リ更ニ刑ヲ執行スルトキハ先ニ執行シタル刑ヲ通算シ其刑ノ停止中拘禁シタル者ハ其拘禁

日數ヲ刑期ニ算入ス

第五十七條 刑ノ宣告ヲ受ケタル者帶勳者ナルトキハ宣告書ノ謄本ヲ添ヘ主理之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ長官ハ勳章褫奪及ヒ停止取扱手續第二條第七條ニ從ヒ處分ス可シ

褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收シタルトキハ主理之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ差出シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ差出ス可シ

第五十八條 有罪無罪ヲ問ハス裁判宣告アリタルトキハ主理其都度被告人ノ所屬長ニ通報スヘシ又宣告書ノ寫ヲ以テ長官ニ届出テ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ届出ツヘシ(二十九年海軍省達第百三號ヲ以テ本項改正)

闕席ノママ宣告アリタル者ニ係ルトキハ其宣告書ヲ被告人ノ現住所ニ送達シ被告人逃亡中ナルトキハ本籍ノ住所ニ送

達ス可シ

刑ノ宣告及ヒ再審ノ裁判ニ於テ無罪免訴ノ宣告アリタルトキハ其旨ヲ被告人本籍ノ市町村長若クハ區戸長ニ通報シ他管ノ軍人ニ係ハルトキハ其本管軍法會議ニモ通報ス可シ

第五十九條 罰金科料ノ宣告アリタルトキハ主理期限内ニ之ヲ完納セシム其被告人艦船團隊居住ノ者ナルトキハ所屬長ニ囑託シ監獄ニ在ルトキハ監獄課長ニ囑託シテ納完セシム可シ但艦船團隊若クハ學校ニ金圓ヲ格納シアル旨ヲ申立ツルトキハ監獄課長ヨリ所屬長ニ囑託シテ納完セシム可シ第六十條 罰金科料ヲ限内納完セサルトキハ主理之ヲ輕禁錮若クハ拘留ニ換フルノ言渡書ヲ作り録事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ言渡シ監獄ニ交付ス可シ直チニ換刑ノ言渡ヲ爲ストキ亦同シ

被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ言渡書ヲ其所在ノ地ノ軍法會

議ノ主理若クハ所屬長ニ送致シ其言渡及ヒ執行ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル者之ヲ執行シタルトキハ其旨ヲ軍法會議ノ主理ニ通報ス可シ

禁錮拘留限内罰金科料ヲ納完シタルトキハ主理又ハ前項ノ囑託ヲ受ケタル者放免ノ處分ヲ爲ス可シ

第六十一條 罰金科料ヲ禁錮拘留ニ換ヘ若クハ放免ノ處分ヲ爲シタルトキハ主理其旨ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ

第六十二條 死刑執行ノ命令アリタルトキハ主理豫メ其期日ヲ定メ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ兵員出場ノ處分アラシコトヲ請ヒ又監獄課長及ヒ同署勤務ノ醫官ニ通知ス可シ監獄課長ハ主理ノ通報アリタルトキハ死刑執行ノ準備ヲ爲ス可シ

第六十三條 死刑ヲ執行スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ主理

監獄課長（艦船ニ在リテハ尉官トス以下同シ）醫官録事之ニ立會ヒ監獄課長死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後銃手之ヲ射發ス

第六十四條 銃手ハ水兵十二名ヲ選ビ尉官一名之ヲ指揮ス可シ

銃手ハ六人ヲ以テ前列トシ六人ヲ後列トシ囚人ヲ距ル十歩ノ地ニ於テ前列ヲシテ囚人ノ眉間ヲ狙ヒ一齊ニ發射シテ之ヲ撃タシム若シ死ニ至ラサルトキハ後列ヲシテ同シク之ヲ撃タシム

第六十五條 死刑ヲ行フトキハ衛兵若クハ水兵若クハ憲兵ヲシテ刑場ヲ警戒セシメ執行ニ關スル者ノ外入ルコトヲ許サズ但主理ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第六十六條 死刑執行ノ始末書ハ録事之ヲ作り主理監獄課長醫官録事署名捺印ス可シ

第六十七條 死刑ノ執行終リタルトキハ監獄課屬員（艦船ハ下士トス）ヲシテ埋葬ノ處分ヲ爲サシメ遺骸ノ下付ヲ請フ者アルトキハ其下付ノ處分ヲ爲サシム可シ

第六十八條 死刑ノ執行終リタルトキハ主理其旨ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達ス可シ

第五章 罰金科料沒收物贖物證據物處分

第六十九條 犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判宣告ヲ爲スマテニ所有主ヲ發見セサルトキハ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ宣告ヲ爲ス可シト雖モ其物件ハ其軍法會議所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間（公告シタル日ヨリ起算ス）ニ所有主ヲ發見シタルトキハ主理之ヲ還付ス可シ但其物件ハ沒收ノ宣告ヲ爲シタルトキハ成規ニ依リ之ヲ物品會計官吏ニ送致シ同官吏之ヲ保管ス可シ若シ同官吏ニ於テ保存ス可カラサルカ又ハ之ヲ保存スルニ付キ

費用ヲ要ス可キモノト思料シタルトキハ之ヲ公賣シ其代價ヲ收入官吏ニ移シ同官吏之ヲ保存ス可シ

第七十條 沒收物件中法律ニ於テ禁制シタル物件ハ之ヲ截斷若クハ燒棄ス可シ但偽造貨幣ノ如キ原質ヲ存ス可キモノハ之ヲ截斷シ事由ヲ付シテ物品會計官吏ニ送致ス可シ

第七十一條 犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ハ一年ヲ經過シタル後之ヲ公賣ス可シ

第七十二條 罰金科料及ヒ沒收金ハ事由ヲ記シ主理ヨリ之ヲ收入官吏ニ送致ス可シ

第六十條第三項ニ依リ納完シタル罰金科料ハ同條第二項ニ依リ囑託ヲ受ケタル囑託廳ノ收入官吏ニ移シ同時ニ其旨ヲ原軍法會議ノ主理ニ通報ス可シ

第七十三條 主理前諸條ニ依リ金錢物件ヲ當該ノ官吏ニ送致シタルトキハ其事由ヲ記シ當該官吏ノ領收證書ト共ニ訴訟

書類ニ添ヘ置ク可シ

第七十四條 贓物若クハ證據物件ヲ所有主ニ還付スルトキ遠隔ノ地ニ送付ヲ請フモノハ海陸便宜ノ方ニ依テ送付シ其運賃ハ本人ヲシテ負擔セシム但官ヨリ押收シタル證據物件ノ運賃ハ官ノ負擔トス

第七十五條 犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ依テ得タル物件ニシテ沒收ニ係ルモノ又ハ證據ノ爲メ官ニ領置スルヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ實際ノ便宜ニ依リ假ニ所有主ニ下ケ渡スコトヲ得

第七十六條 沒收シタル物件ノ内犯罪ノ搜索鑑定ノ爲メ必要ト認ムル異種ニ屬スル物品ハ公賣ニ付スルコトナク之ヲ保存スルコトヲ得此場合ニ於テハ物品會計官吏ハ本案ノ審判ヲ爲シタル軍法會議ノ主理ニ之レカ保存ノ依託ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 犯人數所又ハ一所ニ於テ數人ヨリ得タル贓金ヲ混同シテ其幾分ヲ費消シ其殘額現存スルトキハ按分程式ニ依リ各所有主ニ分付ス可シ

第七十八條 海軍大臣若クハ長官ハ事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此規則ノ手續ヲ變更省略スルコトヲ得

○陸軍監獄令

明治四十一年九月勅令第三百三十四號

第一條 陸軍監獄ハ左ニ記載シタル者ヲ拘禁ス

- 一 懲役禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ受クル陸軍軍人、陸軍所屬ノ學生生徒及陸軍軍屬
- 二 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者
- 三 刑事被告人

陸軍監獄以外ノ監獄ニ移送スヘキ者ハ一時之ヲ拘禁スルコトヲ得

第二條 前條ニ於テ陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號及第五號ニ記載シタル者、陸軍所屬ノ學生生徒ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ニ準スル學生及生徒陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍刑法第十四條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍監獄令

第三條 陸軍監獄ニ懲役監、禁錮監、拘留場及拘留監ヲ置ク

懲役監ニハ懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス

禁錮監ニハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス

拘留場ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス

拘留監ニハ刑事被告人及死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁ス

第四條 拘留監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ

一時拘禁スルコトヲ得

第五條 各隊ノ營倉及陸軍憲兵隊ノ留置場ハ之ヲ陸軍監獄ニ

代用スルコトヲ得

前項ノ營倉及留置場ニハ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ

一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

第六條 陸軍大臣ハ少クトモ二年ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡

閱セシムヘシ

所管長官ハ隨時所管ノ監獄ヲ巡閱シ又ハ部下ノ官吏ヲシテ

巡閱セシムヘシ

理事ハ少クトモ二月ニ一回所屬軍法會議所在地ノ監獄ヲ巡

視スヘシ

第七條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ陸軍大臣ノ定ムル所

ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第八條 在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ陸軍大臣ノ

定ムル所ニ依リ巡閱又ハ巡視ノ官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第九條 受刑者ハ官等、等級又ハ階級ヲ有セサル者ト看做ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀、宣告書其ノ他ノ關

係文書ヲ査閲シタル後之ヲ入監セシムヘシ

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ其ノ身體及衣類ノ検査

ヲ爲スヘシ在監中ノ者ニ付必要ト認ムルトキ亦同シ

第十二條 新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施

行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタル者ナルトキハ第三十四條

ノ例ニ依ル

第十三條 婦女又ハ外國人ヲ入監セシムヘキトキハ普通監獄ニ囑託スヘシ

第十四條 在監者ハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ監房ヲ別異ス

- 一 將官、同相當官及其ノ同等ノ軍屬
- 二 上長官及其ノ同等ノ軍屬
- 三 士官、准士官及其ノ同等ノ軍屬並士官ノ候補者
- 四 下士及其ノ同等ノ軍屬
- 五 前各號以外ノ者

前項ノ規定ハ病監ニ在リテハ之ヲ適用セサルコトヲ得

第十五條 在監者ハ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ成ルヘク其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十六條 刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關聯スル者ハ互ニ其ノ監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其ノ交通ヲ遮斷スヘシ

第十七條

第四條ノ場合ニ於テハ第三條ニ定ムル所ノ在監者ノ區別ニ從ヒ成ルヘク其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十八條

在監者逃走、暴行若ハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監獄外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

第十九條

法令ニ依リ監獄官吏ノ攜帶スル劔又ハ刀ハ左ノ各

號ノ一ニ該ル場合ニ限り在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

一 人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲スヘキ脅迫ヲ加フルトキ

二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ所持シ其ノ放棄ヲ背セサルトキ

三 逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレムトシ又

陸軍監獄令

ハ制止ニ從ハスシテ逃走セムトスルトキ

第二十條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送スヘシ若シ護送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ二十四時間内ニ陸軍監獄、陸軍憲兵隊、所屬部隊又ハ警察官署ニ出頭スヘシ

第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムルコトヲ得

第二十二條 作業ノ標準ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十三條 大祭祝日、靖國神社大祭日、一月一日二日及十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ訃ニ接シタル者ハ三日間其ノ就業ヲ免ス

陸軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得炊事、洒掃其ノ他監獄ニ必要ナル用務ニ服スル者ハ就業ヲ

免セサルコトヲ得

第二十四條 刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カムコトヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十五條 作業ノ收入ハ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就ク者ニハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第二十六條 受刑者タル軍人ニハ監獄内ニ於テ軍事ニ有益ナル教育ヲ施スコトヲ得

第二十七條 在監者就業、教育又ハ第二十一條ノ用務ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲ニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ依リ陸軍大臣ノ定ムル所ニ從ヒ手當金ヲ給スルコトヲ得

第二十八條 受刑者ニハ教誨ヲ施スコトヲ得其ノ他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十九條 在監者ニハ一定ノ衣類、臥具ヲ着用セシム

第三十條 刑事被告人ニハ白衣ノ着用、臥具及糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十一條 受刑者ノ頭髮、鬚髯ハ之ヲ剪剃セシムルコトヲ得

第三十二條 在監者ニハ其ノ健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十三條 在監者疾病ニ罹リ治療ノ爲必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

第三十四條 精神病、傳染病其ノ他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在リテ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ之ヲ衛戍病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ衛戍病院ニ移送シタル場合ニ於テハ該病院ヲ以テ陸軍監獄ト看做ス

第三十五條

在監者文書、圖書ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス

第三十六條 在監者ニ接見セムコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其ノ親族及所屬部隊ノ陸軍軍人、陸軍軍屬ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ特ニ必要アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

接見中ハ監獄官吏ノ立會ヲ要ス

第三十七條 在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其ノ親族及所屬部隊ノ陸軍軍人、陸軍軍屬ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ特ニ必要アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其ノ發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ之ヲ領置ス

第三十九條 陸軍官衙其ノ他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル
文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十條 在監者ニ交付シタル信書及前條ノ文書ハ本人閱讀
ノ後之ヲ領置ス

第四十一條 文書圖書ノ閱讀、信書ノ檢閱其ノ他接見及信書
ニ關スル制限ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四十二條 在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

第四十三條 在監者領置物ヲ以テ其ノ父、母、妻又ハ子ノ扶
助其ノ他正當ノ用途ニ充テムコトヲ請フトキハ情狀ニ依リ
之ヲ許スコトヲ得

第四十四條 在監者ニ差入ヲ爲サムコトヲ請フ者アルトキハ
陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第四十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第四十六條 逃走者又ハ死亡者ノ遺留物ハ陸軍大臣ノ定ムル
所ニ依リ其ノ相續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第四十七條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得
賞遇ノ種類及方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四十八條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス
懲罰ハ左ノ如シ

一 叱責

二 賞遇ノ三月以内ノ停止

三 賞遇ノ廢止

四 七日以内ノ減食

五 二月以内ノ輕屏禁

六 七日以内ノ重屏禁

屏禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ依リ就業セ
シメサルコトヲ得重屏禁ニ在リテハ仍罰室ヲ暗クシ臥具ヲ

禁ス但シ互寒ノ候ニハ臥具ヲ許スコトヲ得
第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第四十九條 懲罰ニ處セラレタル者疾病其ノ他特別ノ事由アルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第五十條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令若ハ通報又ハ刑期ノ終了ニ依リ關係文書ヲ査閲シテ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若ハ假出場ヲ許サレタル者ハ其ノ裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋放ス

第五十二條 通報ニ依リ釋放ヲ爲スヘキ者ハ其ノ關係文書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス

第五十三條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證票ヲ交付ス

第五十四條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其ノ期間中軍紀ヲ嚴守スヘシ

第五十五條 假出獄中第二條ニ該當セサルニ至リタル者ハ假出獄ノ期間中左ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
 - 二 警察官署ノ監督ヲ受クルコト但シ警察官署ハ陸軍監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其ノ監督ヲ委任スルコトヲ得
 - 三 住居ヲ移轉シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト
- 陸軍大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スコトヲ許スコトヲ得

第五十六條 滿期ノ者ハ其ノ刑期終了ノ翌日午前十時迄ニ之

ヲ釋放ス

第五十七條 本令中刑事被告人ニ適用スヘキ規定ハ死刑ノ言
渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第五十八條 引取人ナキ死體又ハ遺骨ハ之ヲ埋葬ス

第五十九條 親族、故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルト
キハ之ヲ交付ス但シ埋葬後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 勞役場ハ之ヲ陸軍監獄ニ附設ス

各隊ノ營倉及陸軍憲兵隊ノ留置場ハ之ヲ勞役場ニ代用スル
コトヲ得第六條及第七條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第六十一條 本令中懲役囚ニ適用スヘキ規定ハ勞役場留置ノ
言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第六十二條 陸軍監獄又ハ勞役場ニ代用シタル營倉又ハ留置
場ニ付本令ニ依ルコトヲ得サル場合ニ於テ陸軍大臣ハ特別
ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
陸軍監獄條例ハ之ヲ廢止ス

○海軍監獄令

明治四十一年九月
勅令第二百三十五號

第一條 海軍監獄ハ左ニ記載シタル者ヲ拘禁ス

- 一 懲役禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ受クル海軍軍人、海軍軍屬
及海軍所屬ノ學生生徒
- 二 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者
- 三 刑事被告人

海軍監獄以外ノ監獄ニ移送スヘキ者ハ一時之ヲ拘禁スルコトヲ得

第二條 前條ニ於テ海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一

號及第二號ニ記載シタル者、海軍軍屬ト稱スルハ海軍刑法

第十條ニ記載シタル者、海軍所屬ノ學生生徒ト稱スルハ海

軍刑法ニ於テ海軍軍人ニ準スル學生及生徒ヲ謂フ

第三條 海軍監獄ニ懲役監、禁錮監、拘留場及拘置監ヲ置ク

懲役監ニハ懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス
禁錮監ニハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス
拘留場ニハ拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス

拘留監ニハ刑事被告人及死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁ス
第四條 拘留監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ
一時拘禁スルコトヲ得

第五條 海軍艦團隊、東京軍法會議、陸軍憲兵隊又ハ警察官
署ノ留置場ハ之ヲ海軍監獄ニ代用スルコトヲ得

前項ノ留置場ニハ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以
上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス但シ艦内留置場ニ在リテハ
此ノ限ニ在ラス

第六條 海軍大臣ハ少クトモ二年ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡
閱セシムヘシ
所管長官ハ隨時所管ノ監獄ヲ巡閱シ又ハ部下ノ官吏ヲシテ

巡閱セシムヘシ

主理ハ少クトモ二月ニ二回所屬軍法會議所在地ノ監獄ヲ巡
視スヘシ

第七條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ海軍大臣ノ定ムル所
ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第八條 在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ海軍大臣ヘ
定ムル所ニ依リ巡閱又ハ巡視ノ官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第九條 在監者ハ官等、等級又ハ階級ヲ有セサル者ト看做ス
第十條 新ニ入監スル者アルトキハ合狀、宣告書其ノ他ノ關
係文書ヲ査閲シタル後之ヲ入監セシムヘシ

第十一條 新ニ入監スル婦女其ノ子ヲ携帯セムコトヲ請フト
キハ必要ト認ムル場合ニ限り滿一歳ニ至ル迄之ヲ許スコト
ヲ得監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付亦同シ

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ其ノ身體及衣類ノ検査
海軍監獄令